



Keio University
Graduate School of Health Management

入学案内 2017

慶應義塾大学 大学院 健康マネジメント研究科

看護学専修

専門看護師プログラム

医療マネジメント専修

スポーツマネジメント専修

公衆衛生プログラム



健康マネジメント研究科委員長
武林 亨

変革期の健康とケアを 先導する研究科として

私たちが直面している超高齢社会では、保健、医療、介護の垣根は低くなり、それぞれがより緊密に連携しながら、効果的かつ効率的なヘルスプロモーション、ヘルスケアを進めることが求められています。また、働き方やソーシャルキャピタルといった社会環境からPM_{2.5}や放射線といった自然環境、そしてストレスが多く、座りがちで身体活動が不足しがちな生活様式まで、環境要因が人々のクオリティ・オブ・ライフに与える影響の大きさにも、これまで以上に注目が集まっています。

こうした課題を解決し、誰もが等しく、健康で、生き生きと誇りを持って暮らすことができる社会を実現するためには、これまで以上に、分野横断的かつ融合的なコミュニティやシステムへのアプローチと、その成員である個へのエンパワメントの両者の視点をもったアプローチが必要です。健康とケアの分野も変革の時代を迎えているのです。

健康マネジメント研究科では、設置から10年を経た2015年以来、こうした変革の時代における本研究科のあり方を徹底的に議論し、『あらゆる人々に健康をもたらし、医療・ケアの質の向上を先導する』ことを使命に、時代の先を見据えた研究・教育・実践の展開を実現するための新たなコースの設置やカリキュラムの改正を進めています。

すでに、目指す専門性の方向によって5つの学位プログラム(看護学、同専門看護師、医療マネジメント学、スポーツマネジメント学、公衆衛生学)を取得することができる教育体制を実現していますが、より充実した実践と研究への学びを深めるためのカリキュラム改正を、2017年度からも行うこととしています。また、研究科それぞれが世界トップクラスにある総合大学の強みを最大限に活かしたジョイントディグリーの制度も設けるなど、科学的方法に基づく高度な実践・マネジメントの追究を通じて健康社会の実現に寄与する大学院へと、さらに歩み続けていきます。

地域から地球規模に広がる健康課題に向き合い、自ら行動して解決を図ることのできる深い学識と卓越した能力を有した人材、すなわち「社会の健康を構想し行動する」人材を目指す皆さんとお目にかかれることを心より楽しみにしています。

概要

大学院健康マネジメント研究科

■専攻名 看護・医療・スポーツマネジメント専攻

■専修名 看護学専修、医療マネジメント専修、スポーツマネジメント専修

		修士課程	後期博士課程
修業年限		2年	3年
入学定員		40人	10人
学位	看護学専修	修士(看護学)	博士(看護学)
	医療マネジメント専修	修士(医療マネジメント学)または 修士(公衆衛生学)	博士(医療マネジメント学)または 博士(公衆衛生学)
	スポーツマネジメント専修	修士(スポーツマネジメント学)または 修士(公衆衛生学)	博士(スポーツマネジメント学)または 博士(公衆衛生学)

キャンパス

湘南藤沢キャンパス(SFC)

本研究科のメインキャンパス。看護医療学部校舎を拠点としています。図書室、キャレルスペース、個人ロッカー、食堂などの利用が可能です。原則として月曜日から水曜日および土曜日に授業が行われます。

■アクセス

小田急江ノ島線・相鉄いずみ野線・横浜市営地下鉄ブルーライン「湘南台」駅西口よりバスにて約15分(「慶応大学」下車)
JR東海道線「辻堂」駅北口よりバスにて約25分(「慶応大学」下車)



信濃町キャンパス

原則として木曜日と金曜日に授業が行われます。図書館などの利用が可能です。

■アクセス

JR総武線「信濃町」駅より徒歩1分
都営地下鉄大江戸線「国立競技場」駅より徒歩5分



設置目的と3つの方針

設置目的

健康マネジメント研究科は、「健康」を軸として、看護・保健・医療・福祉・公衆衛生に関わる幅広い領域において先導的な役割を果たす、学際的な教育・研究を志向し展開する大学院です。これまで「健康」は、不健康な状態(ill-being)の対立概念である健康な状態(well-being)として捉えられてきました。しかし、高齢化や医学技術の高度化に伴い、慢性疾患や障害を抱えながら長期にわたって日常生活を送る人が多くなっている今日においては、そのような従来の概念は必ずしも適当ではありません。そこで、本研究科では、「健康」を誕生から死に至るまでの人間の健康状態の諸相を意味する連続的な概念として捉え直すこととしました。

新しい健康の概念のもとでは、疾病あるいは加齢等が原因で日常生活に支障を来している人に対しては可能なかぎりのQOL

(Quality of Life:生活の質)の向上を図り、日常生活に支障はないが疾病を有する人に対してはより健全な生活を目指す環境作りを行い、疾病予備軍や健康な人に対しては楽しく有意義な自由時間を過ごしながら健康の維持・増進を促すマネジメントが求められます。また、急速な少子高齢化、疾病像の変化、医療技術の高度化、国民の健康志向の増大など、わが国の健康をめぐる環境が複雑化していることから、社会の多様化する要請に応えるためには、システムや組織のマネジメントと個人のマネジメントの両方を同時に成立させることが求められます。本研究科は、これまでの知的枠組みを超えて、国民の健康増進に資する看護・保健・医療・福祉・公衆衛生事業のあり方を構想し、合理的なマネジメントの実施に関する知識・技能を備えた人材の育成を目指しています。

アドミッション・ポリシー

本研究科は学際的・先進的分野の研究科として、医療系・非医療系の出身学部を問わず多様な背景の学生を幅広く受け入れることを目指すとともに、学部の新規卒業生だけでなく、実務経験者を含む既卒者も対象とすることで、教育・研究水準の向上と広がりを目指しています。そのため、入学者選抜については、学力試験による選考にのみ偏ることなく、入学希望者の本研究科における学習研究への意欲、それに適応できる能力、適性等も踏まえて、多面的に判定することとしています。

ディプロマ・ポリシー

修士課程では、所定の期間以上在学し(休学期間を除く)、所定の単位を修得し、中間発表の実施、修士論文または特定の課題についての研究成果である課題研究論文の審査および最終試験に合格した学生に修士学位が付与されます。学位審査は、主査(指導教員)と副査(2ないし3人)で構成される審査委員会によって行われます。

後期博士課程では、所定の期間以上在学し(休学期間を除く)、所定の単位を修得し、毎年度中間審査会において必要な指導・助言を受けると共に進歩の確認・審査を受け、博士学位論文の審査および最終試験によって、博士の学位を取得するにふさわしいか判定されます。学位審査は、主査(指導教員除く)と副査(2ないし3人、指導教員も可)で構成される審査委員会によって行われます。

看護学専修(CNSプログラム含む)、医療マネジメント専修、スポーツマネジメント専修、公衆衛生プログラムから成る本研究科は、各専修・プログラムが相互に有機的に影響し合い、柔軟に連携して常に新しい学問領域を切り開きながらホリスティックに発展することを目指して、次のような方針を掲げています。

■学際的教育の重視■

多様な背景・専門の学生を受け入れている本研究科は、学生が互いの視点と言語を共有し、活発な議論を通じて切磋琢磨する、協働を通じて学ぶ環境を整えています。それゆえ、特定分野・領域の専門科目だけを履修するのではなく、様々な専門科目を履修することで視野を拡げ、社会の健康水準の向上に貢献できる基礎的能力を培うことを重視しています。

■実務と研究の融合の重視■

本研究科では、実務と研究を融合させた教育を重視しています。実践を通じて得られたデータを体系化することで理論を構築し、理論的枠組みを用いて現場の課題解決を図り、さらに現場からフィードバックされたデータをもとに既存理論を検証し修正する、実務と研究が相互に行き来する一連のプロセスを理解するために、本研究科ではインターンシップの機会が用意されています。

■カリキュラム構成■

導入科目

専門領域での効果的な学習・研究に備えて基礎を固めるための科目群

分析手法科目

専門領域を問わず合理的な意思決定に求められる、エビデンスの分析および解釈に関する基礎理論と具体的手法を身につけるための科目群

専門科目

専門領域における高度な知識と技能を修得するための科目群

■実証的研究方法の重視■

保健・医療・福祉のいずれの領域においても、限られた資源を効率的に活用して効果的な成果をあげるためには、個人や集団を問わず、臨床的な合理性と経済的な合理性の両立が求められます。そのため、本研究科は、勘や経験に頼るのではなく、エビデンスに基づく合理的な意思決定に必要とされる実証的な分析手法の修得を重視しています。

インターンシップ関連科目

実務教育と体系的講義との相乗効果や、インターンシップに備えての背景の理解や基礎知識の修得、インターンシップでの実務体験を通じて得た知識・知見の客観化・体系化のための科目群

特別研究科目

修士論文およびそれに相当する研究成果としての課題研究論文を作成するための研究指導を受ける科目

